

み  
代  
表  
質  
問

議会事務局  
処 理 欄

令和6年 5月 8日 8時30分 受付  
質 問 順 位 第 2 番

武豊町議会議長 青木 信哉 殿

武豊町議会議員 久野 勇

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和6年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項

質問の要旨(具体的にご記入願います)

1. 農業施策について

【趣旨説明】  
最近の農業施策を考えると、農業の担い手不足と高齢化の問題が指摘されています。  
5年に1度行われる農林業センサスの結果をみても、自営農業を仕事にしている、いわゆる「基幹的農業従事者」の減少は続き、その平均年齢も上昇しています。  
農地の相続や離農により田畑が放置され、耕作放棄地となることもあり、農業の生産基盤の弱体化にも繋がっていると思います。  
今後の農業を考えると、土壌や水、日光などの天然資源を有効活用し、自然環境や生物多様性に配慮しながら、しっかりとした管理が不可欠です。  
自然の恵みと人間の知恵や技術をバランス良く組み合わせ、さらには気象変動による未曾有の災害にも対応できる持続力が必要です。  
また、作物の栽培だけでなく、農家が農業経営を続けられるようにするためには、収益の安定・向上や作業コストの削減に取り組むことが重要です。  
持続可能な農業を確立するためには、農家自身の努力だけでは限界があります。  
例えば、規格外野菜の有効活用や農産物の適正価格を維持するために、地域の人々や自治体・国・消費者を巻き込んだ取り組みが必要です。  
このように持続可能な農業を実現するためには、これらの問題に対して、具体的に何をすべきか、どのような対策を講じるべきかを考える必要があります。  
そこで、持続可能な農業を確立するために、どのような農業の将来像を描いているのか、以下質問します。

- 【質問事項】
- ① 本町における基幹的農業従事者数、その年齢層の状況は。また新規就農者の現状は。
  - ② 耕作放棄地の現状と対策は。
  - ③ 本町の農業の将来像について、農地の担い手、農業を支える環境の構築等の観点から、どのように考えるか。